令和５年度 佐那河内小学校・中学校学校評価アンケートについて

１　はじめに

本校では、「特色」と「魅力」ある小中一貫教育校として「英語教育」「ふるさと学習」「ＩＣＴを活用した教育」を三本柱とし、９年間を通してすべての児童生徒の可能性を最大限に伸ばすことを目指しています。

今年度の取組について、児童生徒、保護者及び教職員に対してアンケートを実施いたしました。（実施期間：１月２９日から２月１６日まで）本アンケートは、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ることを目的としています。結果について、以下にまとめます。

２　小学校

＜生活について＞

児童アンケートでは、あいさつや当番活動、身の回りの整理整頓等の項目において肯定的な回答をしている児童の割合が 82％以上ありました。同様に、保護者アンケートでも肯定的な回答をしている保護者の割合が 90％以上で高い傾向にありました。しかし、「早寝・早起きができている」と回答している児童の割合が約 68％で低かったです。今後も、家庭への啓発や「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨し、望ましい生活習慣を身に付けられるように努めます。

また、「よくあいさつができている」という項目においては、児童会による朝のあいさつ運動に取り組んだ結果、肯定的な回答をしている児童・保護者の割合が増加傾向にある一方で、教職員の割合が約 43％と低いことが分かりました。朝のあいさつは習慣化してきましたが、いつでも自分から先に気持ちのよいあいさつができる児童の育成を目指しています。今後も、あいさつ運動の在り方を工夫するとともに、家庭や地域でのあいさつの励行等を含めて学校全体で取り組む雰囲気をより一層醸成していきます。

＜学習について＞

児童アンケートでは、「授業はわかりやすく楽しい」「授業中、先生や友達の話をきちんと聞いている」と回答している児童の割合が 85％以上あり、学習に対して前向きな姿勢が見受けられます。また、保護者アンケートでは、学力向上や分かりやすい授業づくりに向けた学校の取組に関する項目において肯定的な回答をしている保護者の割合が 87％以上でした。特に、「学校は、電子黒板やタブレットを活用した授業や家庭学習等に努めている」と回答している保護者の割合が約 96％で高い傾向にありました。

「進んで読書をしている」という項目においては、肯定的な回答をしている割合が、児童約 68％、保護者約 56％と低い傾向にある一方で、教職員約 86％と高かったです。学校では、

様々なイベントや読み聞かせを開催するなど読書推進に向けた取組を充実させたことにより、児童の学校図書館の活用や読書時間等が増えています。しかし、家庭では、持ち帰った本を進んで読んだり、公立図書館で本を借りたりする姿が少ないのではないかと考えます。次年度は、家庭読書の推進に向けて家庭への啓発や取組を工夫し、より読書に親しむ児童の育成に努めてまいります。

＜人権教育について＞

児童アンケートでは、「友達のよさを認めている」「誰とでも仲良くしている」等と回答している児童の割合が 90%以上ありました。「学校は、発達段階に応じて人権や生命を尊重する意識や態度を育てようとしている」と回答している教職員の割合が高いことから、様々な教育活動における人権教育の充実が成果につながっていると考えられます。しかし、保護者アンケートでは、否定的な回答をしている保護者の割合が約 16%であることから、今後は、家庭や地域との連携を強化しつつ、学校での取組や人権教育に関する啓発活動をさらに推進する必要があると感じます。

また、「自分のよいところを知っている」と回答している児童の割合が約 73%で、昨年度と比べて２ポイント減少し低い傾向にありました。今後は、互いのよさを認め合い、ポジティブな行動支援を推進する中で、児童の自尊感情を育てていきます。

＜安全・環境について＞

発達段階に応じた安全教育や様々な場面を想定した避難訓練を実施したことにより、児童アンケートでは、安全に関する３項目で肯定的な回答をしている児童の割合が 94%以上ありました。「子どもの安全に積極的に取り組んでいる」「環境づくりに努めている」と回答している保護者・教職員の割合も 92%以上で高かったです。今後も、いざというときに自分の命を守る行動が取れる児童を育てるとともに、児童が安全かつ快適に学習できる環境を整えていきます。

３　中学校

＜生活について＞

生徒アンケートでは、時間を守ることや、朝食を取ること、挨拶、清掃活動への取組、手洗いうがいの励行など、生活に関する多くの質問項目で肯定的な回答をしている生徒の割合が 82%以上ありました。同様に、保護者アンケートでも肯定的な回答をしている保護者の割合が約 80%で高い傾向にありました。しかし、「早寝・早起きができている」と回答している生徒の割合が約 61%で低かったです。今後も、家庭への啓発や「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨し、望ましい生活習慣を身に付けられるように努めます。

また、「あいさつができている」と回答している生徒の割合は約 88%と高いものの、保護者の割合は昨年度より 15 ポイント減り約 79%、教職員の割合も昨年度より 14 ポイント減

り約 43%と減少傾向にあることが分かりました。いつでも自分から進んで気持ちのよいあいさつができる生徒の育成を目指し、生徒会が実施している「朝のあいさつ運動」を継続しながら、あいさつの意義指導や励行等を含めて、学校全体取り組む雰囲気をより一層醸成していきます。

＜学習について＞

生徒アンケートでは、「授業を真剣に受けている」「毎日の宿題を提出している」と回答している生徒の割合が 85%以上あり、学習に対して前向きな姿勢が見受けられます。また、保護者アンケートでは、「学校は、生徒の学力向上に努めている」「生徒一人一人に対し、適切な指導や支援をしている」と回答している保護者の割合が 85%以上あり、学校の取組に関して肯定的な回答をいただきました。特に、「一人一人の能力や学力を適正に評価している」と回答している保護者の割合が約 91%で高い傾向にありました。

「家庭学習で宿題以外に自主的に勉強している」と回答している生徒の割合は約 74%であり、「進んで学習している」と回答している保護者は約 67%でありましたが、「進んで学習している」と回答している教職員は約 90%と高かったです。学校では、毎日昼休みや放課後に質問教室を開催しており、多くの生徒が継続して参加し、意欲的に取り組んでいます。しかし、家庭では、宿題以外に取り組んだり、発展的な学習を行ったりする姿が少ないのではないかと考えます。自主的な学習は、学力向上や知識の定着に大きく寄与する要素です。自主的な学習習慣を育むためのサポートとして、家庭への啓発やタブレットドリル（ＡＩドリル）などの活用を促進し、より自主的・主体的に学習に取り組む生徒の育成に努めてまいります。

＜人権教育について＞

生徒アンケートでは、「人のいやがる言動をせず、友だちと仲良くできている」と回答している生徒の割合が約 94%でした。「学校は、発達段階に応じて人権や生命を尊重する意識や態度を育てようとしている」と回答している教職員の割合が高いことから、様々な教育活動における人権教育の充実が成果につながっていると考えられます。しかし、保護者アンケートでは、否定的な回答をしている保護者の割合が約 15%あることから、今後は、家庭や地域との連携を強化しつつ、学校での取組や人権教育に関する啓発活動をさらに推進する必要があると感じます。

また、「いやな思いをせず、楽しく学校生活が送れている」に否定的な回答している生徒の割合が約２%でありました。私たち教職員は、一人でも人権が大切にされていないと感じている生徒がいることが課題であることを再確認すると同時に、きめ細かな対応と教職員一人一人の人権感覚を磨く努力を続けていくことが重要であり、引き続き、人権を尊重し、安心して学べる環境を提供するために、努力・実践していきたいと考えています。

４　学校運営（小中合同）について

学校教育目標の達成に向けて、９年間を見通しながら全教職員が協働的に様々な教育活動や学校行事、校務等に取り組み、肯定的な回答が高い項目が多く見られました。また、小中一貫教育をさらに推進するために、ＩＣＴの効果的な活用や特別活動等について小中合同研修を充実させ、教職員の資質向上や授業改善を図ることができました。

しかし一方では、教職員の勤務時間の管理や業務改善の推進等の項目について否定的な回答が見られ、あまり勤務にゆとりがない現状が分かりました。特に、「働き方改革について、保護者・地域への理解促進が図られている」と回答している教職員の割合が約 57%で低かったです。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが５類へ移行したことにより、これまで中止・制限されてきた様々な教育活動や行事等が回復し、数多く実施されました。これらを企画・運営するに当たっては、コロナ禍以前の在り方を基にしながら多様な工夫を取り入れ、新しい学びの在り方へと進化を図るために、たくさんの時間と労力が必要となったことが理由の一つであると考えられます。次年度は、教職員の意見を反映し、さらに業務改善を図るとともに、教職員の働き方改革の推進に向けた取組について、保護者や地域への理解促進に努めたいと思います。

今後も、本校の特色ある教育活動や小中一貫の取組について、ホームページや広報等で啓発し、家庭や地域との連携を図りながら開かれた学校づくりを推進します。

５　学校運営協議会での意見

〇今年度初めに示した学校教育目標は、おおむね達成できている様子が見取れる。

〇ＩＣＴについては、教職員が授業での活用場面や具体的な方法等を工夫し、児童生徒が効果的に活用していることが分かった。

〇新型コロナウイルス感染症が５類へ移行したことにより、教職員への負担が増したようだが、教職員の心身の健康が心配である。教職員がゆとりをもって仕事をできるように、学校運営協議会でもバックアップできるようにしたい。

〇教職員の働き方改革の推進に向けて、他校の具体的な取組や実践を参考に、本校の実態に合わせて取り組んでいくとよいのではないか。

〇教職員が作成するテストについて、業者に作成を委託したり、丸付けや採点をサポートできる方にお願いしたりして、少しでも教職員の負担軽減になるような工夫を取り入れてはどうか。

６　おわりに

この評価結果及び皆様からいただきましたご意見を，次年度の学校運営につなげていきたいと考えています。今後とも，本校の教育活動に対しまして御支援・御鞭撻をお願い申し上げます。